

基隆（キールン）港外で被雷沈没する「高千穂丸」

第37回戦時徴用船遭難の記録画展

潮 騷

第 32 号
平成23年
8月 1日

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会
〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目五
海事センタービル
電話 〇三・三三三・四〇六六二
FAX 〇三・三三三・四〇六八二

大阪市立海洋博物館「なにわの海の時空館」8/22(月)〜9/4(日)

大久保画伯ゆかりの大阪で

わが国最初の船舶画家である大久保一郎画伯の誕生の地であり、活躍の場であった大阪市で「戦時徴用船遭難の記録画展」を開催する。昭和57年に遺作37点が発見され、これを修復して第1回記録画展が開催されてから37回目を迎えた。会場は、大阪市立海洋博物館「なにわの海の時空館」で、会期は夏休み終盤の8月22日(月)から9月4日(日)までの2週間。大阪市をはじめ近隣の府県からも大勢の来場者を募るため、これまでの遺族相談コーナー、DVDの放映に加えて、戦時徴用船とは何かなど、分かりやすく解説するミニレクチャー(講演会)を行うことにしている。

大久保画伯の足跡

海洋国日本といわれるが、船を専門に描く画家をあまり聞かない。そんな中で大久保一郎画伯は、日本最初の海洋画家といわれている。大久保画伯は1889(明治22)年、大阪市富島町(現在の西区川口)で船員の子として生まれた。富田林中学校を卒業して尋常小学校の代用教員となり、23歳で同校の専科教諭になった。富島町には大阪商船本社があり、当時から港や大きな船を見る環境だったのである。大正15年、37歳の時に大阪商船の



大久保一郎画伯

嘱託画家に採用された。船をモチーフにした宣伝用絵葉書の元絵の制作、広報紙やポスターのデザインを手がけた。新造船の進水記念絵葉書の元絵は、建造中のことだから予想図を描くことになる。写真に代わる正確な手がけた。

たくさんのご来場をお待ちしています

記録画公開の経緯

昭和17年、大久保画伯は岡田永太郎社長から「戦争で次々に沈められていく社船の姿を、せめて絵画に残しておきたい」との指示で、30号油彩80点を描いたといわれている。いずれも負傷して生還した船員たちの生々しい証言がモチーフで、戦乱や沈没船の最期を聞き取り、その様子を臨場感迫る作品に仕上げた。これらの作品は、戦後の厳しい統制と復興の混乱によって長い間、行方知れずになっていた。

昭和57(1982)年、大阪商船本社の倉庫に埋もれていた記録画を40年ぶりに発見。絵画修復家黒江光

絵が要求され、図面を見て全体像を読み取ったといわれているが、緻密さだけでなく、船を美しく描く技巧には卓越したものがあって、構図の変化にこだわる姿勢を一貫して崩さなかった。円熟味が増したのは、終戦前3年間に描かれた徴用船遭難の記録画であるとの評判が高い。

戦後の仕事は、進水記念絵葉書用の油彩画が中心だったが、大阪や神戸の造船所の依頼で船室に飾る絵も手がけた。絵葉書の絵は約400点に及び、1976(昭和51)年に86歳で亡くなるまで描き続けた。

彦氏により修復され、第1回記録画展で公開されることになった。

戦時徴用船とは

太平洋戦争の開戦理由は、世界からの孤立と経済封鎖にあった。資源のない日本は、石油・鉄などの鉱物を求めて南方へ侵攻、戦域を拡大していった。日本軍の南方侵攻には、兵員や武器などの戦略物資と資源を日本へ輸入するための大量輸送に必要な船隊が不可欠だった。従って、外・内航船をはじめ漁船、機帆船に至るまで国家徴用され、戦況が悪化した1942(昭和17)年以降には、ほとんどの戦時徴用船が戦火の海に沈んでいったのである。

雨にうたれ しめやかに 第41回戦没・殉職船員追悼式

観音崎公園

日本殉職船員顕彰会は、5月12日(木)午前11時から第41回戦没・殉職船員追悼式を神奈川県立観音崎公園の戦没船員の碑で執り行った。ここ数年の五月晴れがうそのようになり、涙雨が降りしきる中、ご

遺族や関係者など全国から470人が参列した。66年前に終戦を迎えた先の大戦で、心ならずも犠牲となられた戦没船員と海難や労災等で殉職された船員の御霊に対し、心からの鎮魂と哀悼の祈りを捧げた。

式典は、白居勲理事長の開式の辞により厳かに始まった。国家斉唱の後、「国の鎮め」が流れる雨の中で黙とうが行われ、本会を代表して鈴木邦雄会長が式辞を捧げた。

◎ 鈴木会長式辞



雨にも負けず、追悼に被災者の気持ちを重ねて



式辞を捧げる鈴木会長

「第41回戦没・殉職船員追悼式を挙げるにあたり、全国から参列されたご遺族はじめ関係者の皆様にご心から御礼申し上げます。

桜散る4月14日、ご芳名を浄書した殉職船員9人の新たな名簿が、慰霊碑へ納められました。これにより、先の大戦で犠牲となった戦没船員6万609人に加えて、戦後の海難や労働災害で殉職された、2947人の御霊が、慰霊碑に奉安されていることとなります。

終戦から66年、ご遺族の中心が戦中・戦後生まれの世代から、第二世

代へと時代は移りました。一方、国民生活のすべてを崩壊させた、悲惨な戦争を知る語り部たちが、少なくなろうとしています。

私たちは、明日を担う子供たちが、二度と同じ轍を踏まないために、戦争の不条理を語り継ぎ、犠牲者へのたゆまぬ追悼を続けなければなりません。そうした行動と祈りが、目の前に広がる穏やかな海のように、永遠の平和につながることを祈ります。

戦後の復興に欠かせなかった海運・水産業の職場で、心ならずも殉職された船員たちを忘れることができません。私たちは、わが国の今日の繁栄が、そうした殉職船員たちの、尊い命の犠牲の上にあることを忘れてはなりません。

◎ 総理大臣追悼の辞

公務のため出席できない菅直人総理大臣に代わって、国土交通省の井手憲文海事局長が代読した。

「第41回戦没・殉職船員追悼式に当たり、6万3千余柱の御霊に対し、



追悼の辞を代読する井手海事局長

謹んで哀悼の誠を捧げます。海洋国家日本にとって、豊穡の海は、我々の暮らしを支え、海外との友好の橋渡しをする大切な役割を果たしてきました。その海が戦いの舞台となり、多くの命が失われることは、海を愛する方々にとって耐え難い苦しみであったと拝察いたします。祖国を思い、家族を案じつつ、心ならずも戦場に散った6万人余の船員の御心情に思いを致すとき、終戦から六十五年が過ぎ去った今なお、悲痛の思いが込み上げてきます。

2カ月前、東北から関東太平洋岸を急襲した大地震と巨大津波は、沿岸地域に壊滅的被害を及ぼしました。とりわけ水産業と旅客船事業は、巨大津波の直撃を受けて、多くの船員とご家族が被災されました。ここに謹んでお見舞い申し上げます。亡くなられた方々に哀悼の誠を捧げます。終わりにあたり、戦没・殉職船員6万3556人の御霊を追悼し、その功績を顕彰し、永遠の平和と安全を継承することを改めてお誓い申し上げます。安らかにねむれ わが友よ 波静かなれ とこしえに 参列いただいた皆様とともに、碑文石に刻まれた御霊への祈りを捧げ、本会を代表し式辞といたします」。

戦後は海運や水産業に奉職し、不幸にして海難や労働災害により2千9百人を超える方々がその職に殉じられました。哀惜の念に堪えません。そして、今般の東日本大震災は、未曾有の犠牲と被害をもたらし、我が国で中核的な位置づけを誇ってきた地元水産業は、壊滅的な打撃を受けました。海と共に生きる方々にかくも甚大な犠牲が生じたことは痛恨の極みであります。

この大震災からの復興は長く、困

難な途になるかも知れません。しかし、我が国は、これまで幾度となく困難に陥りながら、お互いに励まし合い、支え合いながら復活と再生を成し遂げてきました。決してくじけることなく、日本をよりよい社会に再生させるために全力を尽くしてまいることを誓います。

戦没・殉職船員の御霊が安らかならんことを、そしてご遺族の皆様御健勝をお祈りして、追悼の辞といたします」。



遺族代表献花の左から股張さんと白井さん。白井さんの後方に堀田さん

鎮魂歌「君は帰る母なる海へ」の曲が流れる中を代表献花が行われ、鈴木会長の後にご遺族が続いた。

今年、戦没船員ご遺族代表に堀田明道さんと白井貞さん、殉職船員ご遺族代表に股張次男さんの3人が献花した。

来賓の代表献花者は次のとおり。



手前、吉田横須賀市長と井手海事局長



海事振興連盟田中副会長

▽海事振興連盟田中慶秋副会長▽国土交通省井手憲文海事局長▽横須賀市吉田雄人市長▽防衛省海上幕僚幹部榎木新二総務部長▽海上自衛隊横須賀総監高嶋博視海将▽海上保安庁第三管区海上保安本部新城達郎次長▽全国海友婦人会橋本則子会長▽神奈川県横須賀土木事務所鈴木祥一所



役員代表、手前から重専務理事、上野会長、前川副会長



献花に向かう藤澤組長と橋本会長、右は本会役員席

長▽東京海洋大学今津隼馬副学長▽独立行政法人航海訓練所飯田敏夫理事長の方々である。

また、本会役員として代表献花したのは、鈴木会長のほか、▽日本船主協会前川弘幸副会長▽全日本海員組合藤澤洋二組合長▽日本内航海運組合総連合会上野孝会長▽大日本水



産会重義行専務理事の方々である。参列者全員の献花が終わる頃、式典に寄せられた式電が披露され、閉式の辞が告げられた。

式典は8年ぶりの涙雨。週間予報が出された頃から雨模様で、参列者の出足が心配だった。東日本大震災の影響からか、案内状の出欠連絡が例年の半数止まりだったものの、終盤に持ち直し、ほぼ平年並みの参列者に胸をなでおろした。

雨模様の祭場は足元が悪く、高齢のご遺族には危険が伴う。そうした状況にもかかわらず平年と変わらない参列者があったことは、故人を偲ぶ遺族の心情とあわせて、戦没船員への追悼が関係者の使命とする強固な意志を感じさせた。

しかし、雨天でなければ、海上自衛隊横須賀音楽隊の演奏により一層厳粛な雰囲気にも包まれたであろうし、観世流一門による能楽「海霊」の奉納も東京湾口を望む祭場がふさわしい。次回はぜひ晴天を望みたい。

戦没・殉職船員の御霊に献杯



井手海事局長の発声で献杯、懇親会が和やかに始まった

恒例の懇親会は、今年も観音崎京急ホテルのレストランで開催した。能楽「海霊」奉納がホテルロビーで行われたことで、祭場とは違う目の前の演舞に大いに感動した様子だった。参列者たちは30分ほど早く懇親会場へ移動した。



追悼式には毎年訪れているという小林さんは、今回は4人で参列した。青森県から駆けつけた娘さんは、東



全国から集合した4人姉妹

小林和子さん
懇談する戦没船員ご遺族の中から、次の方々にお話を伺った。

奉納が終わって、懇親会場へ移動した参列者は400人を超えて例年と変わらない出席者により開宴。鈴木会長のあいさつに続いて、井手海事局長が献杯を行った。
「慰霊碑の前に立った時、戦没船員と殉職船員の方々の慟哭の音が聞こえるような気がいたしました。また、天から慟哭の涙が降り注ぐ中で、大変しめやかに追悼式が執り行われました。これを契機に、これからも

皆様とともに、あした(朝)には平和を祈り、夕べには航海の安全を祈り献杯したいと思います。6万3556名の御霊が安らかならんことを祈念し、また、ご遺族の末永いご健勝を祈念いたします」と述べて献杯の唱和を促した。

その後は、旧知のご遺族たちをはじめ関係者がテーブルを囲んで、それぞれに和やかな歓談のひとつときを過ごした。
日本大震災の影響で新幹線が正常でなく、やっとの思いで辿り着いたという。皆が集まることを知った次女は、急ぎよ鹿兒島から飛んできた。
「昭和19年11月15日、日本海運の輸送船「あきつ丸」に乗っていた父は、東シナ海の五島列島沖で沈没して亡くなりました(享年39)。船員歴は6年でした。当時、日本海運所属と聞いていましたが、もう記録がなくて正しい職種が分かりませんでした。当時を知る人にお聞きしたら機関部ではなかったか。私たち姉妹はまだ幼くて、父が戦火の海で仕事していることなど想像もできませんでした。父の面影を語り継ぎながら、私たち姉妹も歳をとりました。追悼式に毎年参加して、全国の多くのご遺族の皆様とお知り合いになり、元気をいただいています」。

「私、そのとき7歳でしたので、父のことの多くを記憶していませんでした。そして翌々年には母も亡くなりました。父が元氣だった頃、年に一度の横浜寄港のとき、『氷川丸』など日本郵船の船の見学に連れて行ってもらったことが楽しかったですね」と思い出を語った。

追悼式には10数年前に参列して以来、2回目と話す。日本郵船で長年無線局長(通信長)をしていたお父様は、定年間近の55歳の時に徴用された貨物船「若竹丸」に乗船し、昭和19年10月23日、台湾海峡で撃沈され戦没した。

追悼式を知るきっかけを訪ねると、「平成6年に北九州市小倉で開

追悼式には10数年前に参列して以来、2回目と話す。日本郵船で長年無線局長(通信長)をしていたお父様は、定年間近の55歳の時に徴用された貨物船「若竹丸」に乗船し、昭和19年10月23日、台湾海峡で撃沈され戦没した。



娘の都史子さんと参列された

副田清子さん
11月15日、五島列島沖で左舷船尾に雷撃を受けて沈没、兵隊2093人、戦砲隊140人、船員67人が戦死した。

催された『戦時徴用船遭難の記録画展』に出かけて、大久保一郎画伯の絵を見たことからです。今回は、娘の都史子さんに連れられて参列し、「父に、末永く私たちを見守ってくださいとお祈りを捧げました」。

秋山和義さん



祖父を偲び、顕彰会を
知って追悼式に参列

秋山さんの祖父は、広海汽船所屬海軍徴用船「広順丸」に乗船していた。昭和19年8月13日、ミンダナオ島沖航行中に米国潜水艦「ブルーギ

殉職船員九名を奉安

戦没船員の碑には、殉職船員調査の結果、ご遺族が了解した方々のご芳名と没年月日を浄書した名簿を奉安し、毎年5月中旬の追悼式で慰霊の儀を執り行っています。

平成22年度の殉職船員奉安者は9名でした。全国にはまだ多くの方々がいるものと考えますが、個人情報保護の下で情報入手が困難なことに

ル」の雷撃に合い、大きな損傷を受けながら航行を続けて一命を取り留めた。しかし、その後再乗船した「白峯丸」がフィリピンへのセブ島沖航行中、昭和19年9月、敵の攻撃を受けて沈没し、祖父は心ならずも亡くなった(享年31)。

「2カ月前、日本殉職船員顕彰会のホームページを見てさっそく問い合わせたところ、追悼式のご案内があり初めて参列しました。秋山さんは、父親が亡くなった時に遺品を整理していて、祖母がずっと大切に持っていた船員徴用令状や当時の資料を見つけたと話す。

「祖父のことを何も知りませんでした。私は歴史を辿ることが好きでしたが、まさか身内のことで戦争と向き合うとは思ってもみませんでした」と感慨深げだった。

加え、ご遺族の了解が得られないケースも少なくありません。

追悼式を前にした4月14日、次の9名(旅客船船員1人、漁船船員8人)のかたがたの名簿を戦没船員の碑へ奉安いたしました。

*

▽(株) 酢屋商店(今野清紀様、鈴木三夫様、高橋忠雄様、阿部清勝様、川上米文様)

▽志摩マリネリジャー(大山裕二様)

▽(株) 山田水産(股張保様、満尾幸人様、大道義人様)

お知らせ

終戦記念日献花式



終戦記念日(8月15日)には、毎年、神奈川県立観音崎公園の「戦没船員の碑」で献花式を行います。

5月中旬の追悼式とは違って、事務局から案内状をお送りするのは、当会関係者約60人ですが、どなたでも出席することができます。

この日は、正午から武道館で政府主催の「全国戦没者追悼式」が行われ、式典はこれに合わせて進めます。

集合は、午前11時観音崎京急ホテル、同30分マイクロバスで戦没船員の碑へ向かいます。同50分慰霊碑の献花台前に整列し、以下、「全国戦没者追悼式」のラジオ放送の実況に従って式次を進めます。

総理大臣式辞の後、12時00分黙とう。戦没船員の御霊を追悼し、海洋永遠の平和を誓います。同02分天皇陛下お言葉を聞き、閉式。マイクロバスで観音崎京急ホテルへ戻って昼食後に解散となります。

例年、暑い最中にもかかわらず、常勤役職員のほか、海事関係者や当会役員経験者など30人余が参列し哀悼の誠を捧げます。

追悼式は 多くの皆様の下支えで運営

顕彰会の常勤者は5人。追悼式当日には40人からの人手を必要とします。2カ月前から始まる実質準備は、式典1週間前の実行委員会でクライマックスを迎えます。この時までには大方の準備を整えて役割分担を決定します。実行委員は、当会を支える有力な海事団体を中心に選出を依頼していますが、式典の格調と厳かな雰囲気づくりには、横須賀海洋少年団、東京海洋大学海事普及会の皆さんの参加が欠かせません。また毎年、個人として実行委員をお願いしている横須賀近在の皆様は、当会の者より式典の流れに詳しく頼もしい存在です。今年は8年ぶりの雨天となりましたが、それにもかかわらず無事の終了は、一重に皆様のご支援の賜物と感謝いたします。第41回追悼式の実行委員は40人、このうち、初参加の方々をお願いした感想文の一部を紹介します。

東京海洋大学の皆さん

齋藤詠子さん

受付で殉職船員遺族の係を初体験させていただきました。

右も左もわからず、ひたすら走り回ってベテラン実行委員の皆様にご迷惑をおかけしてしまつたようです。

そんな中で、実行委員が思いやりある心の広い方ばかりで、とても優しく接してくださり、感謝の気持ちで一杯です。こうした方々のお陰で雨の中の式典でしたが、円滑に進めることができたのだと思います。

この日は、大学OBの方、海上自衛隊トップの方など要人にお会いできて、「勉学に励み、日本だけでなく世界を背負う立派な人間になりな

雨降りの受付、する方もされる方も大変でした



さい」と、ありがたいお言葉を頂戴いたしました。これからの社会を担うのは私達の世代です。世界平和が構築できるように全力を尽くし、いただいた言葉を大切にして過ごしたいと思います。顕彰会の方々に深く感謝したいと思います。

稲垣 彬さん

式終了退場時の案内係という貴重な経験を体験し、まずまず成功であったと思います。案内係は参列者と直に接する役割なので、式典のイメージを自分たちの行動が左右しかねないと考え緊張しましたが、日ごろ部活などで接客を経験していましたのでそれが役立ちました。

当日は、5月には希な大雨にもかかわらず大勢の方々が参列くださつてありがたく思いました。

また、良く分からないことも多く、困っている時には他の実行委員が優しく教えてくださり、大変助かりました。感謝申し上げます。来年は、また違う部員がお世話になると思いますが、よろしくお願い致します。本当にありがとうございます。

鳥居和弘さん

海洋大学海事普及会の一員として会場の車両係をさせていただきました。大変光栄なことと感謝しております。

参列されたご遺族や、実行委員の方々を見回すと、お年を召された方々が多く、それだけに日本海運界の歴史の重さを感じました。そもそも

海洋大はその前身たる東京商船大学、高等商船学校の頃から海運界へ人材を送り出していた学校であり、わが国近代海運と共に歩んだ学校であるといえます。その大先輩の多くが奉安する慰霊碑での追悼式に、運営側の一員として参加ができたことは、海洋大学生の使命を再認識する上でも大きな意義がありました。

海運は国家の根幹をなす産業であり、海運に殉じた方々を顕彰し、追悼を重ねることは、日本人全体の義務でもあると、実行委員を務めたなかで強く思いをいたしました。

亀山隆太郎さん

海洋大海事普及会は毎年、追悼式実行委員に参加し、運営の一翼を担っています。私は初参加で、先輩方には遠く及びませんでしたが、受付係を精一杯させていただきました。

参列者にどのように接すれば良いか、はじめは手探り状態でしたが、周りの手助けもあつて無事に終えることができたようです。この日は生憎の雨で、途中から急きよ代表献花者に傘を差し上げて差し上げる役割も加わりました。海上幕僚監部をはじめ制服姿を間近に見て、改めて海を感じ、海に気づき、海で亡くなった戦没・殉職船員の追悼式が大変重要であることがひしひしと伝わってきました。これからも海に殉じた船員たちを永遠に忘れないよう、この式典が永く続くことを願っています。



活躍した大活面場であらゆる場面と若さ深刺！あらゆる場面で活躍した海洋少年団と海洋大学の皆さん

海事団体などの皆さん

石川慶二さん（日本海事広報協会）

臨時駐車場の整理係を担当しました。式典会場とは距離があつて、会場の様子がよく分かりませんが、生憎の雨天にもかかわらず、早くに來られたご遺族の方々の待機場所のないことが、大変気になりました。

例年、追悼式は5月中旬であるがゆえに雨天は希なのでしようが、一考の余地ありと感じました。

また、実行委員の協力体制と熱心な活動には敬意を表します。

井筒 毅さん（日本船長協会）

私は、京急の路線バス「観音崎バス停」の近くに、式典会場への送迎バス乗り場の看板を設置し、参列者

を送迎バスにご案内する係でした。当日は雨で、かなり年配の方も多く、バス停から送迎バス乗り場までの距離を短くすべきだと思ひました。

また、式典の感想としては、雨の中で傘も差さず、レインコートも無しのお濡れ状態で参列するのはどうかと思ひます。立派な服の人や年配の人もたくさんおり、何とかしてあげなければと感じました。

石井洋一郎さん

（海員組合関東地方支部海友会）

今回は一般参列者の受付係が担当でした。雨の中で整然と座ることができず、祭場のイス席数が不足してしまひ、大変申し訳なく思ひました。また、帰りのバス待ちで、高齢者が多いのに、長時間並んでもらうことが忍びなく、次回の雨天対策にしたいだきたいと思ひます。

いろいろご苦労があるうかと思ひますが、追悼式はぜひとも継続しなければならぬ事業だと思ひます。

石井美枝さん（横須賀海洋少年団）

祭場とホテルでの案内係をさせていだきました。雨の中を遠方から参列された方々の故人を思ふ辛お氣持ちが、どれほど強いものなのかをお察しいたします。このような国家的な追悼式をお手伝いできて大変良かったと思ひます。良い経験ができたことを嬉しく思ひます。

野地奈々さん（横須賀海洋少年団）

祭場の案内と献花の係をさせていだきました。当日は、雨がひどく歩くのも大変な日和になりました。

開式後、遅れて参列される方々もいましたので、席が一杯で座ることも出来ず、高齢の方が雨の中を立っていらしたことが大変気の毒でした。受付からいくつかのイスを運んで端の方に座っていただきました。

追悼式は、いろいろな準備で大変なことも分かりますが、テントで参列される方もいる中で、せめて高齢者にはイスに座ってもらいたかつたと思ひました。

白井和子さん（個人協力者）

能演者世話係の引き継ぎとして初めて参加しました。役割を無事務めること、能演者に失礼のないよう手順を覚えることに集中しました。そんな中で実行委員の皆様熱意に感動しました。次回もぜひ参加させていだき、少しでもお役に立てればと思ひます。

生憎の雨天のため、能奉納がホテルロビーになりました。開始時間が遅れたこともあり、能関係者とお話しする機会がございました。追悼式で能奉納することの大切さと観世流一門の能楽「海霊」への思いなどをお聞きすることができました。

実行委員を務めることにより、能が少しでも身近に感じることができ

き、年一回でも戦没者のお役に立つことができる氣持になったことを、とても感謝しております。

伏木亜理紗さん（海員組合総務部）

初めて参加し、戦没船員遺族の受付係をさせていただきました。

はたして何人の方々が参列されるのか見当もつかず、生憎の雨天ともなればどうなってしまうのかと大変心配しましたが、大勢の方々参列され、大きな問題もなく式典を終えることができてほつとしました。

雨で能奉納がホテルロビーに移りましたが、またいつか参加させていだいて、慰霊碑の前で演舞が見られたら良いと思ひます。

実行委員を通じて、異なる職場の人や、海洋大学の学生さんなど様々な方々と交流できて、とても良い経験になったことが収穫でした。

大保清美さん（海員組合広報室）

記録係として参加しました。これまで何度か機関紙誌の取材できたことはありましたが、実行委員としては初めての参加で、これまでにない緊張感を感じました。

雨天での挙行となつて心配でもありましたが、実行委員がそれぞれ任務をしっかりとこなし、事故もなく無事終了できたことではつとしました。ありがとうございます。

ご厚情に感謝申し上げます

本会の事業運営に要する資金は、基本財産の利息収入のほか、会員からの会費や寄付金、海運・水産・旅客船などの会社および海事関係団体からの会費や補助金などで、戦没・殉職船員の慰霊・顕彰とご遺族への援護事業を支えています。

会員制度には、賛助会員と協賛会員があります。

賛助会員には、「法人」と「個人」があり、次の年会費をお願ひしています。◎法人賛助会費110万円、◎個人賛助会費11口1万円。個人賛助会員には、毎年

4月に会費の納入をお願いしています。協賛会員は「個人」にお願いしているもので、加入月を会費納入月として、次の年会費をお願いしています。

◎協賛会費11口3千円。平成22年12月20日以降、平成23年6月30日までに、次の皆様からご寄付をいただきましたほか、新たに協賛会員として加入していただきました。厚く御礼申し上げます。

なお、当会は平成23年4月1日に公益財団法人へ移行したため、税法上の「特定公益増進法人」に該当することになりました。

詳しくは9ページをご覧ください。

詳しくは9ページをご覧ください。

◆寄付金

- 大井正義様(我孫子市)
- 高橋一郎様(藤沢市)
- 海事思想普及研究会様(神戸市)
- 新田尚子様(宇都口市)
- 河合ハル子様(横浜市)

◆追悼式献花料

- 南七郎様(新潟県岩船郡)
- 山田利政様(松江市)
- 横須賀市東部漁業協同組合様(横須賀市)
- 小松和夫様(横浜市)
- 小林義隆様(篠山市)

- 市) ○高倉洋子様(金沢市)
- 川畑實恵様(明石市)
- 阪口勝子様(草津市)
- 渡辺光様(山陽小野田市)
- 江藤政雄様(和歌山市)
- 嶋田早苗様(八幡市)
- 御代テル子(いわき市)
- 高垣宏江様(神戸市)
- 高垣幸徳様(神戸市)
- 尾崎秀子様(神戸市)
- 長野ヨネ子様(東京都中野区)
- 青函連絡船殉職者遺族会様(函館市)
- 福岡海寿会様(福岡市)
- 大原亮治様(横須賀市)
- 福田陽子様(雲仙市)
- 水野孝子様(新潟市)
- 飯田喜久三(東京都渋谷区)
- 河合ハル子様(横浜市)
- 米山隆昭様(東京都北区)
- 高等商船学校三期

- 会様(東京都北区)
- 新田尚子様(宇都口市)
- 荒谷秀治様(横浜市)
- 伊藤郁子様(東京都大田区)
- 大圖富美子様(水戸市)
- 中村順子様(船橋市)
- 西川克巳様(神戸市)
- 中村良秋様(松戸市)
- 山岸信二様(前橋市)
- 中野昭男様(名古屋市)
- 桜井正様(千葉市)
- 北村禮子様(東京都江東区)
- 濱脇ゆり子様(長崎市)
- 近藤和恵様(横須賀市)
- 小野寺麗子様(気仙沼市)
- 股張次男様(横浜市)
- 全日本海員生活協同組合様(横浜市)
- 日本郵船株式会社横浜支店様(横浜市)
- 鴨居地区連合町内会様(横須賀市)
- 鴨居三軒谷町内会様(横須賀市)
- 浪速タンカー株式会社様(東京都港区)
- イノマリンサービス株式会社様(東京都港区)
- 財団法人全日本海員福祉センター様(東京都港区)
- 小田切威様(横浜市)
- 全日本海員組合職員OB会様(東京都港区)
- 高等商船学校二期生会様(横浜市)
- 株式会社シグマコミュニケーションズ様(東京都品川区)
- 日本内航海運組合総連合会様(東京都千代田区)
- 財団法人船員保険会常務理事中澤政光様(東京都渋谷区)
- 南洋海運株式会社様(藤沢市)
- 財団法人日本船舶員福利雇用促進センター様(東京都中央区)
- 財団法人船員保険会会長坂野泰治様(東京都渋谷区)
- 社団法人日本中小型造船工業会様(東京都港区)
- 財団法人水交会様

- (東京都渋谷区)
- 東郷会様(東京都渋谷区)
- 財団法人海難審判協会様(東京都千代田区)
- 日本郵船株式会社社郵和会様(横浜市)
- NYKシップマネジメントジャパン株式会社様(東京都港区)
- 高等商船学校一期会様(横浜市)
- 荒川博様(東京都三鷹市)
- 都竹利年雄様(東京都杉並区)
- 三輪史郎様(千葉県印旛郡)
- 三宅弘様(逗子市)
- 横浜海員会館様(横浜市)
- 山下義韶様(神奈川県中郡)
- 曾根幸雄様(横浜市)
- 竹端昭治様(豊中市)
- 才津俊朗様(横浜市)
- 伊藤喜市様(横浜市)
- 橋本進様(藤沢市)
- 五十嵐温彦様(大和市)
- 鹿児島商船学校同窓会京浜支部様(東京都港区)
- 本村泰清様(逗子市)
- 鳥羽商船同窓会様(伊勢市)
- 芳賀文男様(横浜市)
- 小林勇様(横須賀市)
- 鈴木木与一郎様(つくば市)
- 畑瀬忠之様(鎌倉市)
- 松浦郁郎様(横浜市)
- 山本艶子様(伊勢原市)
- 全国海運組合連合会様(東京都千代田区)

◆協賛会員

- 大寺英純様(大阪市)
- 篠原国雄様(東京都足立区)
- 田坂和子様(下関市)
- 細井輝房様(千葉市)
- 穀田範尚様(塩釜市)
- 梶野多恵子様(宗像市)
- 秋山和義様(横浜市)
- 逸見誠様(芦屋市)
- 伊藤通浩様(高萩市)

寄付金の税制優遇のお知らせ（その一）

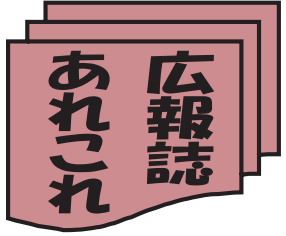
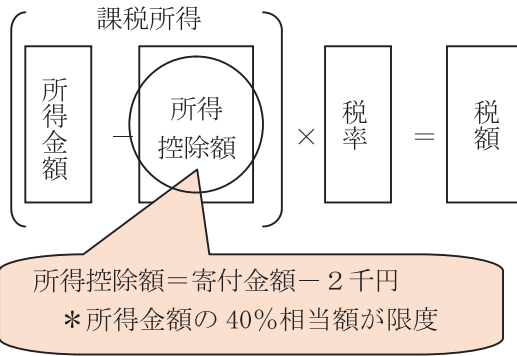
頭彰会への 寄付金が税金から控除されます

日本殉職船員頭彰会は、平成23年4月1日から内閣府の認定を受けて公益財団法人へ移行したことにより法人形態が変わりました。公益財団法人は、税法上の「特定公益増進法人」に該当し、税制上の優遇制度（以下「寄付金税制優遇」という。）が認められることになりました。

当会に対する寄付で寄付金税制優遇に該当するものは、戦没・殉職船員追悼式や終戦記念日献花式の献花料、個人の賛助会費、協賛会費、法人の賛助会費などです。

- * * *
- 寄付金税制優遇は、①個人からの寄付、②法人（民間企業等）からの寄付のそれぞれについて定められています。
- ①個人からの寄付の場合
 所得税に関する寄付金税制優遇は、寄付金額から2千円を差し引いた額が所得控除されます。
 （注）控除の限度額は所得金額の40%相当額です。
- ②法人からの寄付の場合

個人の場合の
所得税の所得控除とは？



本誌創刊号は平成7年12月のこと。当会設立が昭和56年4月だから、広報誌が14年間ない時代を経て、今年創刊17年目を迎えたことになる。

創刊号には「潮騒」の題字はなく「殉職船員頭彰会だより」だった。刊末で誌名の募集が行われ、第2号で現在の題字が掲げられている。

候補には、海員魂、殉難の海、わたつみの会、海霊、洋望など多くが寄せられた。選考の弁は「戦没船員の碑が建つ東京湾観音崎の汀に寄せる潮騒が、全国の海辺に同じ響きを寄せるように、本誌が会員皆様の交流を密にし、より強くするものとして愛読されることを願ひ『潮騒』とした」と記されている。

第3号は、平成9年1月1日新年号として発行され、1面の会長年頭のあいさつにカラー写真（初日の出）が初登場した。時流である誌面カラー化はここから始まるが、全面カラー化は平成17年8月発行の第20号からである。この号では、終戦60周年の節目で、追悼式ほか主要行事に加え、7月には全国の遺族をお招きし、天皇皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ、「戦没殉職船員遺族の集い」の開催を掲載している。また、本誌を刷新し、現在の誌面構成と編集方法の軌道を敷いたものといえる。

モノクロ4ページからスタートした本誌は、段階的なカラー化と誌面拡大を図りながら、現在のカラー12ページを軌道に乗せようだ。今後は、誌面の一層の充実が課題だが、何よりも読者参加をお願いしたい。

投稿のお願い

「潮騒」は、当会の事業を会員の皆様に報告する広報誌であると同時に、本誌をご覧になる皆様のサロンでもあります。優れた広報誌は、記事のテーマが豊富で親しみがわいて、手にとって読んでもらえるものでないと意味がありません。

それには、いろいろな個性的な書き手が様々登場することがベストです。「潮騒」のバックナンバーを見ると、読者からの投稿が活発だった頃がありました。人それぞれ顔が違うように考え方も様々です。どうぞ皆様からの投稿をお待ちしていますので、ご意見。要望など、何でもかまいません。誌面がにぎやかになると、事務局は新たな気持ちで取り組みことができます。どうぞよろしくお願いいたします。

殉職船員 ご遺族からのお便り

このたびの東日本大震災により尊い生命を落とされた方々、その家族の方々に衷心より哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に謹んでお見舞いを申し上げます。東北3県には、殉職船員ご遺族のうち3家族の皆様がお住まいでした。震災直後、それぞれのご家庭と連絡が取れず大変心配いたしました。通信網の回復が進むにつれて、ようやく無事を知らせる便りが届いて、事務局一同安堵いたしました。

◇宮城県 阿部悦子さん

震災で家も車も流されてしまいました。家族と親族にけがはなく助かりました。まだ仮設住宅も決まらず、避難所にいますが、なんとか無事に過ごしています。

大変で無我夢中でしたが、顕彰会の皆様のおかげで、心遣いとご心配

をいただきありがとうございます。学校もようやく始まりました。

息子は静岡県の三島で「心を元気にするツアー」というイベントがあつて、友達と参加して楽しんできました。部活の先輩や友達が亡くなって不憫です。避難所生活に加えて、連日のように繰り返される余震に、心落着くにはまだまだの状況ですが、少しずつ前に進むしかないと思えるようになりました。援助金を大切に使用させていただきます。

◇宮城県 中野真吾さん



今年3月、卒業式前日の震災で、高校の入学も1ヶ月遅れ、学校も3高校に分かれての授業が始まりました。部活はバドミントン部に入部し

東日本大震災、大津波の爪痕

ました。部活も、また、違う学校の体育館を借りています。まだ慣れないことが多いけど、とても楽しく通っています。

◇宮城県 中野幸枝さん

いろいろと心あたたまる心遣いをいただき感謝いたします。学校は5月9日から始まる予定で、スクールバスが出してもらえるので安心しました。離島なので船が心配でしたが、4月27日からフェリーが動き、便数も増えるようになってきました。お動けるようになってきました。

◇宮城県 高橋弘子さん

いつもお心使いを感謝しています。幸い家が無事に残りましたが、2度の大地震と大津波、今だに続く大きな余震で、毎日ぐっすり眠ることができません。でも、私がオロオロしては子供たちが不安になると思っている、いつものように子供たちを叱りながら忙しい1日を過ごしています。

まだ私たちは幸せな方です。家族が皆無事で会うことができましたし、自宅で過ごすことができます。困りごとは多々ありますが、みな無理と諦めております。何か一つと思っても何も思い浮かばない日々です。

この頃は、一日一日生きていくので精いっぱいという周囲の言葉をよく耳にします。まだまだこの状態が続くと思います。ガソリンは朝4時から並んでやっと20リットル。それも片道15〜20キロ行かないとスタンドがありませんが、私は車も助かりましたので何と幸せでしょう。

今回の震災で不思議な出来事がたくさんありました。私は主人が何もかも助けてくれたと思っています。お兄ちゃんの大学の入学式に何とか連れて行ってあげたいので、これからは毎日ガソリンスタンドへ通うつもりです。子供の笑顔のために、がんばります。

殉職船員遺児へ 援助金を支給

当会の事業には商船に乗船中、海難や労災で殉職した船員遺児へ援助金を支給する制度があります。これは返還の義務がありません。援助金の支給額は1人月額8千円。入学記念品代として小学校入学時に3万円、中学校入学時と高校入学時には、それぞれ1万円を支給します。援助金の支給を希望する方（遺児の保護者）は、当会の支給願書に必要書類を添えて申請することになります。詳しくは、当会事務局へお問い合わせください。なお、漁船乗組員の遺児の方は、漁船海難遺児育英会が援助事業を行っていますので、お問い合わせください。

4/1から

公益財団法人へ移行しました

平成20年12月1日に施行された公益法人改革関連法によって、すべての特例民法法人（従来の財団法人・社団法人など）は、5年間に新法人への移行認定・許可申請を行わなければなりません。

本会は、財団法人から公益財団法人へ移行する方針を決定し、1年間の準備期間を経て、平成22年3月下旬の評議員会・理事会に提案。同年11月下旬に公益認定等委員会へ移行認定の申請をいたしました。

その後3カ月余り、同委員会事務局との協議や書類の補正などの手続きを済ませた結果、平成23年3月中旬に至り、公益認定等委員会は内閣総理大臣に対して本会の扱いを答申し、同月下旬に認定書が交付されました。

本会の新しい事業年度が始まる平成23年4月1日、旧法人を解散し、新たに公益財団法人として設立登記を行いました。

5月26日の第2回理事会の議を経て、30日の第2回評議員会で鈴木邦雄前会長（商船三井）が退任され、同日午後開催した第3回理事会で前川弘幸さん（川崎汽船）が新会長に選任されました。

鈴木邦雄前会長は任期2年を務め、公益財団法人への移行に尽力されたほか、本会設立40周年の記念事業として、天皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ追悼式を挙行、記念碑「行幸啓お成りの碑」を建立いたしました。評議員会での退任のあいさつで、

「顕彰会を支える皆様のご協力により、2年の任期を無事全うすることができました」と謝意を述べました。

評議員会で選任された理事15人は、代表理事（会長）、副会長、業務執行理事を選任するため、同日午後理事会を開催し、会長のほか役員理事を選任しました。

新会長に就任した前川さんは「設立40周年の峠を越えて、しっかりと節目を作った顕彰会は、次の節目に向けて歩みを始めました。先人が築いた実績を生かして事業を進めていきたい」と抱負を語りました。

事業を支える評議員・役員

新法人の定款は、従来の寄附行為に比べると評議員および評議員会、理事および理事会、監事と、それぞれの職務と権限が強化されることになりました。

4月1日付登記に際して、評議員15人、役員（理事15人・監事2人）が選任されましたが、その後、関係する会社・団体の総会時期を迎え、本会の評議員・役員の一部に異動がありました。

5月下旬の評議員会・理事会で選任された方々は次のとおりで、任期は評議員が平成23年4月1日から4年、役員は平成23年4月1日から2年間でです。

評議員（15人）五十音順

- ▽赤峯浩一（日本郵船）
- ▽井筒毅（日本船長協会）
- ▽井上晃（日本船主協会）
- ▽甲斐定彦（海洋会）

- ▽小坂智規（大日本水産会）
- ▽駒崎一美（日本海事広報協会）
- ▽佐々木真己（川崎汽船）
- ▽高木信男（全国海運組合連合会）
- ▽田中利行（全日本海員組合）
- ▽津野田元直（日本海員掖済会）
- ▽中村祐三（海技振興センター）
- ▽平塚惣一（商船三井）
- ▽福井和雄（全日本海員福祉センター）
- ▽真鍋貞隆（日本旅客船協会）
- ▽宮寺重男（日本船舶機関士協会）

役員（17人）五十音順

- 代表理事（会長・1人）
- ▽前川弘幸（川崎汽船）
- 理事（副会長・3人）
- ▽芦田昭充（日本船主協会会長・商船三井）
- ▽藤澤洋二（全日本海員組合組合長）
- ▽上野孝（日本内航海運組合総連合会会長）
- 理事（業務執行役員・2人）
- ▽白居勲（日本殉職船員顕彰会理事長）
- ▽上野朝雄（日本殉職船員顕彰会常務理事）
- 理事（9人）
- ▽内田成孝（全日本船舶職員協会）
- ▽小野嘉久（日本水先人会連合会）
- ▽小島茂（日本船長協会）
- ▽重義行（大日本水産会）
- ▽武田和彦（日本船舶機関士協会）
- ▽豊島達（日本海事広報協会）
- ▽豊田耕治（海洋会）
- ▽中本光夫（日本船主協会）
- ▽宮原耕治（日本郵船）
- 監事
- ▽本望隆司（全日本船舶職員協会）
- ▽三尾勝（日本船員厚生協会）

会長が交代しました

鈴木さんから前川さんへ



第37回 戦時徴用船遭難の記録画展

大久保一郎画伯 遺作37点



8/22(月)～9/4(日)

午前10時～午後5時

大阪市立海洋博物館
なにわの海の時空館
大阪市住之江区南港北2-5-20 TEL 06-4703-2900

入場無料

「海の時空館」の
入館料が必要です



主催 公益財団法人 日本殉職船員顕彰会
東京都千代田区有明4丁目1番1号 TEL 03-3344-0662
大阪府 大阪市 大阪市教育委員会
後援 ㈱商船三井 ㈱日本海事広報協会 大阪府 大阪市 大阪市教育委員会
毎日新聞社 朝日新聞社 読売新聞社 NHK大阪放送局 毎日放送 朝日放送 読売テレビ

「戦時徴用船遭難の記録画展」は、偶然にも遺作37点と同じ37回目を迎えて、大阪市住之江区南港にある大阪市立海洋博物館「なにわの海の時空館」で開催。会期はこれまで最長の2週間で実施します。

大久保一郎画伯は大阪生まれで、船舶画家として活躍し、職場であった大阪商船もまた発祥の地でした。いわば「ゆかりの地」ともいえるべき大阪市開催にあたり、記録画展の成功を念じて準備を進めます。

ご当地開催に欠かせない地方自治体やマスコミへの後援名義の依頼を手始めに、遠隔地ともいえる南港の会場へ、いかに多くの来場者を誘致できるかが大きな課題です。

戦争を知らない世代が国民の大多数を占めるようになり、戦時を語る機会さえ失われようとしています。こうした行く末が二度と悲劇を繰り返さない。そう確信できれば良いですが、今の世界を見渡しても、不安を払拭することができません。

記録画展が戦争の悲惨さを伝える希少な機会の一つとして、大阪市民と近隣府県の皆様の心に届くならば、あふれるほどの来場者が来ていただけるものと期待します。

これを実現するには、事前の広報と会期中の広報に努めるほかありません。海事諸団体をはじめ、各地方自治体、マスコミ関係者への働きかけが成否を分けると思っています。

ご来場の注意

- 1 記録画展は「海の時空館」1階企画展示室で無料公開しますが、博物館（船と歴史の体験ミュージアム）全体が観覧できる入館料（大人600円）が必要です。
- 2 記録画展は、午前10時から午後5時までの公開です。
- 3 一方、海の時空館は夏休み中（7/21～8/31）、午前10時から午後7時まで営業で、閉館時間を2時間延長します。
- 3 また、夏休み中、午後3時以降の入場者は入館料半額（大人300円）に割引です。涼しくなる夕方の入場がおすすめです。



編集後記

追悼式は、初回から最も天候が安定する5月半ばに挙行されてきた。統計では、雨天は41回中わずか7回、17%の確率で今年、遭遇したのである。心ある人は「初めに、最悪の雨を体験しておけば、あとは恐いものは何もない」などと励ましてくれたものの、参列者には申し訳ない事態をお詫びしなければならぬ。

8年ぶりの雨は、完璧なものだった。週間予報で既に雨。その後も好転の兆しを見せず、いち早く梅雨到来かと思わせるほどの憂鬱だった。

いよいよ前日、カッパを着て設営を開

始した。無論雨バージョンである。能奉納の祭場に音響設備用の TENT を張った。パイプ椅子の設置は明日早朝へ繰り延べて早々に撤退。

明けて当日、今にも降り出しそうな空は、台風崩れの熱低から延びる寒冷前線の仕業だ。「昼が峠のようだがどうする」。誰かが耳元で囁いた。決断の午前6時過ぎ、雨バージョンを伝えた。

時折強く降る雨も、経過とともに弱まって、開式の頃には涙雨となった。強風に煽られなかったことがせめてもの救いだったが、実行委員の指摘のとおり、雨対策への課題は多く大きい。(U)